

Emergence Of Industrial Japan

九州・山口の近代化産業遺産群 -産業日本の台頭-

1850s to 1910s

世界遺産評価基準 ii, iii, iv 適用 世界文化遺産



19世紀後半から20世紀初頭にかけて日本国は半世紀で産業国家に変貌し、工業立国の土台を構築した。その道程は世界に類例がない。極東の閉ざされた島国はアジアで初めて産業革命を成し遂げ、経済大国の地位を確立した。本遺産群はユネスコの評価基準を満たし群としてその道程を立証し、産業国家の台頭を証言する。

Produced by Koko Kato,

産業革命の証左は未来に向かって稼働中

100年もの間民間企業が稼働させながら保存している産業の職場である

三菱重工長崎造船所



三池港



新日本製鐵八幡製鉄所





モノづくりの心と志

石炭を焚いて走る兵船、汽走艦船の出現
脆弱な海防への危機感から生まれた
蘭書片手に試行錯誤の近代化
志は産業革命発祥の地、大英帝国を目指す



集成館(1872)



萩城下町(江戸時代)



萩城下町(江戸時代)



蕪山反射炉



集成館反射炉(1854)



萩反射炉(1858)



西洋の技術移転 匠の技から産業システムへ 蒸気船・大型船をつくる 造船



小菅修船場跡(1868)



三菱重工
長崎造船所向島第3ドック(1905)



恵美須ヶ鼻造船所跡
(1856)



三重津海軍所跡
(1858)



150tハンマーヘッド型
起重機(1909)





鉄



大島高任

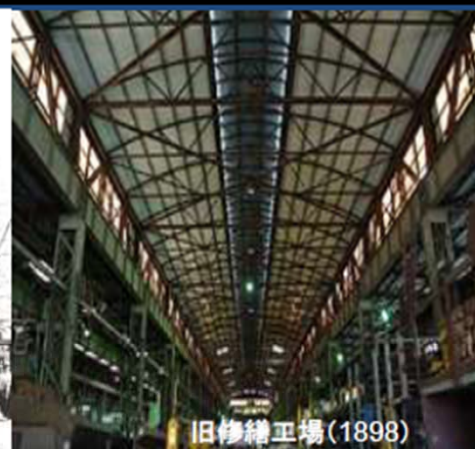
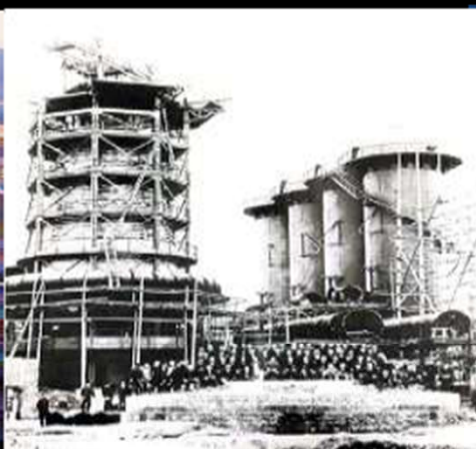
釜石 橋野高炉跡 (1858)

スチールを製造しよう



鉄は文明開化の塊なり
(福澤諭吉)

官営八幡製鐵所 (1898 現在の新日本製鐵) 銑鋼一貫の近代製鉄業の完成
素材産業の国産化により工業立国の基盤が完成



旧修繕工場 (1898)



遠賀川水源地ポンプ室 (1910)



旧本事務所 (1898)



三井は石炭産業の大量生産、産業物流システムを整備した 三井三池港
石炭山の永久などありはせぬ。築港をやれば、石炭がなくなっても新たに産業を興すことができる。
百年の基礎になる 固琢磨

ハミングバードの形状

明治の工業港のスケール（水面）

船渠

石炭



防砂堤（土砂との闘い）



三池専用鉄道。港から坑口へ石炭物流

世界でも当時最新の機械を導入し近代化を図った。
炭鉱は閉山、積出し港は生きている

三角西港1887
（三池港との対比）



三池炭鉱専用鉄道（1901）



三池炭鉱宮原坑（1901）



三池炭鉱万田坑（1908）





海洋炭鉱群
軍艦島
GUNKANJIMA
高島→軍艦島へ

蒸気機関がと西洋式炭鉱システムが
日本で初めて導入された高島炭鉱





産業を支えた人々の人生。
 歴史の教科書には登場してこない人々の人生。
 彼らの汗で築かれた生活文化や知恵こそが、
 本当の意味での「産業遺産」である。
 笑い、涙、怒り、
 私たちは人生を風化させたくない。

k. kato

九州・山口の近代化産業遺産群協議会

加藤康子コーディネーター提供